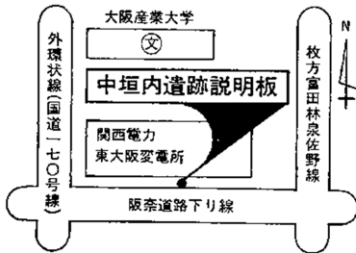




大量の弥生土器が出土した  
中垣内遺跡



中垣内遺跡は、昭和三十  
四年に、現在の阪奈道  
路下り線北側にある関西  
電力東大阪変電所の建設  
工事に伴い発見された遺  
跡です。大量の弥生土器  
や石器が出土したほか、  
竪穴住居跡が見つかった  
ことから、今から約二千  
年前の弥生時代前期の集  
落跡として知られていま

す。その後、中垣内遺跡で  
は発掘調査が行われてい  
ませんが、昭和六  
十二年以降、大阪産業大  
学校舎増築工事や二十八  
年振りに行われた変電所  
敷地内での発掘調査で、  
多くの成果を収めること  
ができました。

昭和三十四年から現在に  
至るまでに行われた発掘調  
査の成果を紹介するととも  
に、当時の大東市域がどの  
ようであったのか考えてみ  
たいと思います。  
(次号につづく)

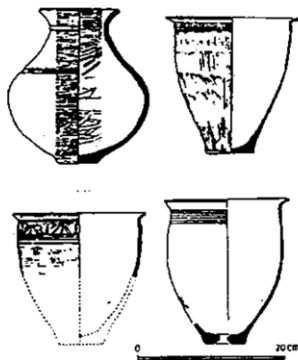
## 中垣内遺跡

(その一)

え合わせると、これまで弥  
生時代前期の集落として知  
られてきた中垣内遺跡は、  
古墳時代前期にも集落が存  
在していたことがわかって  
きました。

## 中垣内遺跡

(その二)



中垣内遺跡出土土器実測図

昭和三十四年に、中垣内  
遺跡が発見されたきっかけ  
は、前号で書いたとおりで  
すが、工事中の発見であっ  
たために、約十五日間とい  
う短期間の発掘調査でし  
た。調査の範囲も変電所敷  
地の北東隅(南地区)と敷  
地の北側(北地区)の二カ  
所に限られたものでした。

それでも、多くの調査成  
果を上げることができ、  
もしも、その発見が現在  
であれば、弥生時代の我  
が国を代表する遺跡とな  
っていたかも知れません。  
主な出土遺物は、大量  
の弥生土器のほかに、磨  
製石斧(石をていねいに  
加工したオノ)、石庖丁

(稲穂を刈る道具)、石鏃  
(矢じり)、木製の鋏、鋤(農  
耕具)などが出土していま  
す。南地区では竪穴式住居  
跡が、北地区では、溝に伴  
う杭列が発見されていま  
す。出土土器は弥生時代前  
期のものが多く、ここに弥  
生時代前期の集落が存在し  
たことがわかりました。弥  
生時代前期の土器のほかに  
も、中期や後期の土器と、  
古墳時代になってから使用  
される須恵器や土師器など  
も出土していることから、  
規模の変動はあったにせ  
よ、長期間にわたり、集落  
が営まれていたのではない  
かと考えられるようになり  
ました。しかし、明確に弥  
生時代前期の遺構といえる  
のは、発見された竪穴式住  
居跡のみで、詳しいことは  
将来の調査に待たねばなり  
ませんでした。  
(次号につづく)